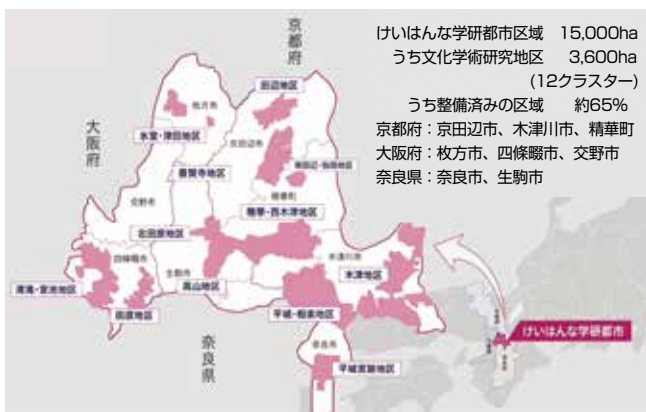


いよいよ始動、けいはんな万博2025

まちびらきから30年あまりをかけたサイエンスシティとして発展してきた「関西文化学術研究都市(以下、けいはんな学研都市)」では、2025年に開幕する大阪・関西万博にあわせて「けいはんな万博2025」が開催される。この内容を概観するとともに、本年6月3日にうめきた・グランフロント大阪にて開催したキックオフイベントの様相を紹介する。

「けいはんな学研都市」のいま

けいはんな学研都市は、1987年の関西文化学術研究都市建設促進法の公布・施行を経て、本格的に都市建設がスタートした。



けいはんな学研都市の特徴は、①民間活力の活用、②12にわたる文化学術研究地区の開発、③文化学術研究施設と住宅の複合開発であり、現在では人口約25万人、文化学術研究施設数は150超を擁するまでに成長している。これまでに情報通信、ロボット、環境エネルギー、ライフサイエンスなどの分野で高い研究成果や技術が蓄積されており、社会実装や事

業化につなげる動きも活発である。2025年に夢洲で開催される大阪・関西万博でも、同時音声翻訳やロボット・アバターなど、けいはんな学研都市発のさまざまな技術が実装される予定で、国内外から高い注目を集めている。

「けいはんな万博2025」の概要

「けいはんな万博2025」は、2025年4月から10月の間、大阪・関西万博の開催に合わせて「未来社会への貢献～次世代への解～」をテーマに開催される。けいはんな学研都市全域を会場とするとともに、仮想空間も積極的に活用し、大阪・関西万博の会場とも連携しながら、4つのフェスティバルを中心に楽しく期待感のあるコンテンツを企画・展開していく(図)。

けいはんな学研都市は、国が定める「大阪・関西万博アクションプランver.5」において、万博の活動を拡大継承する「ポスト万博シティ」に位置づけられている。こうしたことから、「ポスト万博シティ」を実現するためにも「けいはんな万博2025」を成功に導くことが重要である。その主催組織であるけい


図「けいはんな万博2025」概要

式典

2024年6月 先行催事(キックオフイベント)
 「けいはんな万博2025」の開催を広く発信し、祝祭の雰囲気を盛り上げる

2025年4月 開会式 「けいはんな万博2025」の開催意義、内容を広く紹介する

2025年10月 閉会式 「けいはんな万博2025」の成果とレガシー、未来への提言を広く発信する



けいはんな万博ロゴマーク

催事
4つのフェスティバル

① **ロボット・アバター・ICT**
けいはんな学研都市をロボットやアバターでにぎやかなまちにする

② **ウェルビーイング**
よりよく生きるために、食・健康等の観点からウェルビーイングの未来を考える

③ **スタートアップ**
けいはんな学研都市をスタートアップが競って集まるまちにする

④ **サイエンス&アート**
科学と文化の融合による新たな価値を創造する

※それぞれに部会を設置し、具体的なコンテンツを現在検討中

そのほか

- 上記4つのテーマに合わせた学会や国際会議の招致
- オープンラボテックツアー開催を通じたけいはんなの魅力発信、イノベーション拠点の機能強化等を予定

はんな万博2025運営協議会には当会も参画しており、連携・協力しながら事業を進めている。

「けいはんな万博キックオフイベント」開催！

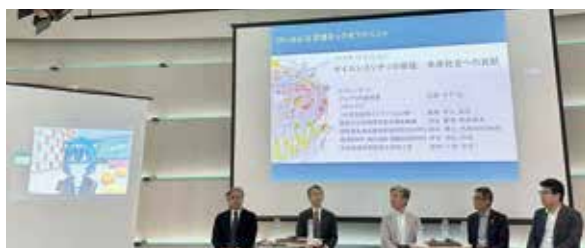
6月3日には、「けいはんな万博2025」のお披露目の場となる「けいはんな万博キックオフイベント」を開催した。全体テーマとして「サイエンスシティ『けいはんな』から描く未来社会のデザイン」を掲げ、基調講演に加え「けいはんな万博2025」とその後にめざすべき都市のあり方を議論するパネルディスカッション、さらには大阪・関西万博の会場で実装されるけいはんな発の先端技術の展示などを行った。シンポジウムには約220名が参加、展示ブースには300名以上が来場した。



ミャクミャクも駆けつけたキックオフイベントの様子

主催者挨拶で、堀場厚 けいはんな万博2025運営協議会共同代表(関西文化学術研究都市推進機構理事長、関西経連副会長)は「大阪・関西万博で注目が集まる絶好の機会に、『けいはんな万博2025』を開催し、けいはんな学研都市で進められているさまざまな研究開発を世界に向けて発信したい。スマートシティの実現やフードテック・ロボティクス等の活用を通じ、社会課題の解決が進むことを大いに期待している」と述べ、「けいはんな万博」を足掛かりとした都市のさらなる発展に向けて意気込みを語った。

続いて、関西文化学術研究都市建設促進議員連盟の事務局長を務める小林茂樹衆議院議員と、近畿経済産業局の信谷和重局長より来賓挨拶をいただいた。



パネルディスカッションの様子

塩崎一裕 けいはんな万博2025運営協議会座長(奈良先端科学技術大学院大学学長)は「けいはんなのあ

ゆみとポスト万博シティ実現に向けた展望」と題した基調講演において、「われわれが抱える課題は、科学技術の進歩や蓄積された文化・叡智によって必ず解決できる。未来を生きる子どもたち、若者たちにこそ、科学や文化の価値・意義を伝え、その発展を担ってほしい」と訴えた。

「サイエンスシティの価値、未来社会への貢献」と題したパネルディスカッションでは、けいはんな学研都市に立地する企業・研究機関に加え、つくば市も登壇し、サイエンスシティとしての強みやその強みを引き出すために必要な課題解決、けいはんな学研都市およびポスト万博シティに向けた期待について、意見交換を行った。さらにサイエンスシティの強みである研究開発・実証実験の成果を内外に発信し、ビジネスにまでつなげていくことの重要性や、両都市の発展に向けた拠点間連携の方向性を確認するとともに、住民の生活に最先端の科学技術を実装していく上での工夫・課題などについても積極的な意見が交わされた。

最後に、大阪・関西万博で実装されるけいはんな発の技術(国際電気通信基礎技術研究所：移動型サイバネティックアバター/情報通信研究機構：同時通訳技術/地球環境産業技術研究機構：カーボンニュートラル)についてそれぞれの若手技術者より説明があり、その後若手技術者とけいはんな学研都市内の大学に通う学生との座談会が行われた。学生にとっては将来につながる話を聞ける機会とあって「研究を始めるきっかけは」など、次々質問が出ていた。シンポジウム後の技術展示も盛況で、活発な質疑応答、ネットワーキング活動が行われた。



技術展示ブースの様子

「けいはんな万博2025」の成功をめざして

今回のキックオフイベントは、けいはんな学研都市の認知度向上や「けいはんな万博2025」に携わる関係者の一体感の醸成につながった。今後、「けいはんな万博2025」開催に向けて4つのフェスティバルを中心にさまざまなイベント・コンテンツが具体化される。当会も「けいはんな万博2025」の成功とその後のけいはんな学研都市の飛躍に向けて貢献していく。

(産業部 奥田則之)